

「二宮金次郎から学ぶ」

を読む

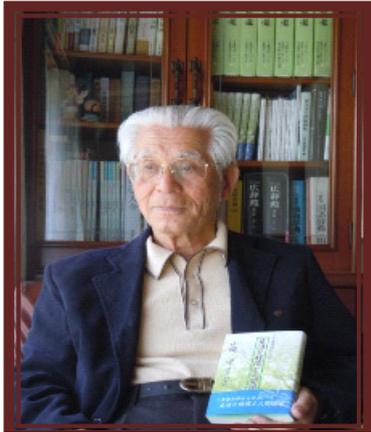
このたび大日本報徳社より小関栄さんの『二宮金次郎から学ぶ―生活と経済と人間関係』が出版されました。著者は銀行、会社、市政、大学講師など豊富な経歴を積み、現在は大日本報徳社理事のほか「学園花の村」の顧問としても活躍しておられます。

この本は表題からしてこれまでの二宮尊徳伝記とは違います。対象は疲弊した江戸末期の農村復興を成し遂げた二宮尊徳像ではありませんが、作者は表題の3つの視点から、現代人の感覚で二宮尊徳の実像に迫ります。

江戸時代末期、農民でありながら厚い封建社会の壁を乗り越え、農村を救済できたのはなぜか。教えられずに学んだ内容や学習方法は？ 著者は金次郎の知識習得条件として彼を取り巻く当時の社会の文化

の高さに着目します。

文字を覚えてくれた母親、学ばべき蔵書を残してくれた父親、金次郎の質問に答えた村の長老たちや、遊び仲間、小田原の学習塾や使われた教材など。そして日記や最近の研究成果を踏まえた解説の中で特に数学の役割を重視します。後に「数学者二宮尊徳」といはれるほど仕法作成に数学を利用したのは、相手にはつきり分からせるため、数字で示すデータは武士と言えども反論の余地がないからです。「分度」作成に方眼紙に描いた量率グラフや借財返済計画のために作られた利倍表など、知識レベルの高さを思い知らされます。



著書を手にする小関栄さん

「人間関係」ではこれほど多くの仕法関係者の名前が出てくる解説書も少ない。作者はあたかもジャーナリストとして江戸時代にタイム・スリップし尊徳に仕法の真髄を語らせるかの感があります。百聞一見にしかず。ご一読あれ。

この書籍「二宮金次郎から学ぶ」は「大日本報徳社」と「報徳博物館」で、定価1,400円(含む消費税)にて購入する事ができます。

なお、著者の小関さんは、この書籍の販売金は、これからの大日本報徳社の報徳活動資金として、すべて推奨(寄付)することです。

(会員 伊藤公博)

イノシシ撃退法

最近猪の被害が急増しています。が「倉馬の里」では唐辛子を使った方法で撃退をしております。それは35度の焼酎200ccに唐辛子の実を10個ほど入れ1週間ほど漬けて込みます。その液を50倍程に薄めそれを畑(100坪)の周囲に如露

で蒔く。残った実は小さく千切りしじょうに蒔く。回数は一か月に1回程度。この方法でここ1年は猪の被害はありません。

唐辛子に含まれるカプサイシンを猪が嫌うのではないかと思えます。それからすると畑の周囲に唐辛子を植えるのも良いかもしれません。どうぞお試しあれ、ただ唐辛子を触った手で敏感な部分を触ってはいけません。ヒリヒリします。(藤本記)

バードウォッチング

里山クラブの5月例会は、28日所を変えて小笠山で行われた。今回は静岡県のある鳥「三光鳥」を見ようと講師に中山幸男さんを迎えて、行われた。参加者は10名

小さな鳥なので、見つける事が出来るか心配をしていましたが、バードウォッチングというよりヒアリング、数回遠くで声が聞こえましたが、小笠山の自然のすばらしさに虜になりそうでした。

